



地域の

目

Series 40

骨を埋める覚悟で います

沖縄SV代表
元サッカー日本代表

高原 直泰



「骨を埋める覚悟でいます」
昨年12月7日、新サッカーチーム沖縄SV(エスファウ)の設立記者会見での、僕の言葉はメディアを駆けめぐりました。でも地域にスポーツクラブを創るものの姿勢として、覚悟として、当然のことだと思っています。
今年に入って、大好きな沖縄の地に愛犬といっしょに引っ越してきました。関東での家も車もすべて売り払ってきました。うちなーんちゅや仲間たち、チームメイトたちと新しい一歩を踏み出しました。
現在チームは17名、元Jリーガーは僕を入れて5名となります。沖縄県出身者も5、6名います。2月1日にはチーム練習を開始。28日は、うるま市役所でスポーツフォーラムを開催、僕も講演をさせていただきました。思いとビジョンを語りました。最後にはチーム全員が登壇して一人一人が自己紹介させていいただきました。思いがけず参加者の皆さんから声援と拍手を受けて、熱いものが胸に流れてきました。僕らへの期待を強く感じた瞬間でした。

印象に残る話があります。昨年、地元の中学生年代の指導者・コーチたちと会食した時です。
「沖縄では優秀な中学生の選手がいても、みんな九州や関東の強豪高校へ行ってしまふ。そして帰ってこない。沖縄に受け皿があれば……」
もともと僕は、育成に興味があつて、ブンデスリーガでプレーしている頃にドイツの素晴らしい育成環境やシステムに日本との違いを痛感していました。「日本でもこういった環境をつくれなにか」。新チームでもいつかジュニアユース(中学生などを手がけたい)と思っていました。が、沖縄の現状を知って予定を早めました。
本年度からジュニアユースのチーム設立を決めて、3月24日に具志川ドームでセレクションを開催したのですが約50名の小学6年生の生徒さんが集まってくれました。子供たちのプレーをプロである僕の眼から見て、沖縄サッカーの良さも課題も理解できました。ここから30名前後の選手が選ばれました。が、やがて沖縄SVのトップチームで活躍する選手が生まれてほしいのです。それを心から願っています。
沖縄SVには2つのビジョンがあります。

一つはスポーツの産業化。サッカーチームを盛り上げていき、いずれ沖縄を「スポーツ立県」としたいのです。これを実現した都道府県はまだありません。スポーツによって県全体が活性化され、雇用も創出して経済に大きなメリットをもたらす。教育においてもスポーツがもつと取り入れられたらと考えています。ですからサッカーだけでなく他競技の育成やアカデミーも計画しています。
もう一つはグローバル展開です。沖縄からは中国もジャカルタもハノイも台北も、東京よりはるかに近い。アジアを舞台に試合や育成などいろいろな展開が可能です。カップ戦や強化などでアジアの国々のクラブと対戦する機会も増えていくでしょう。ビジネスチャンスも数多く生まれていきます。これからのサッカーはヨーロッパや南米に加えてアジアを重視したほうがいい。アジアでのスポーツの拠点に沖縄は充分なり得るのです。アジアを舞台に戦う、アジアへ発信していく。地理的にも沖縄は最適の場所なのです。
またチームのアドバイザーに世界的な仲介人であるトーマス・クロート氏が就任しています。僕がドイツへ移籍した時からお世話になっている方です。彼はドイツサッカー界との強いつながりがあるので、まずドイツクラブのジュニアユースのチームを沖縄へ招聘してキャンプやカップ戦を開催することを計画しています。また逆に沖縄からドイツへのサッカー留学も考えています。今後のチームの戦略を考え、これは大事なプランです。
僕たちのクラブはうるま市及び金武町・宜野座村を中心とした沖縄県全域がホームタウンですので、沖縄県全域から応援してもらえ、チームを目指しています。スポーツ立県・沖縄の中核となるチームを実現させたい。そのためには沖縄の皆さんのサポートと応援が必要です。沖縄SVのこと、末永く宜しくお願い致します！
ゆたさるぐうとうにげーさびら！